

人体の構造と機能【人体の機能】

担当教員	板東 良雄	所 属	秋田大学大学院医学系研究科
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	2単位(60時間)
履修の目的 人体は細胞・組織・器官が有機的に互いに協調して恒常性を維持することによって正常な生命活動を維持している。本講義では人体の機能に重点をおいて学修するが、正常な人体の構造(解剖)と機能(生理)の破綻が様々な疾患につながることを理解する。ここで学修することのすべてが専門科目で学ぶための基礎知識として必須となる。			
授業の形式 講義形式(スライド中心)			
成績評価の基準等 中間試験と修了試験の2回の試験を実施し、2回の平均が6割以上を合格とする。			

【教科書：①② ・ 参考図書：③～⑥】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 解剖生理学	医学書院
②	看護1000問学校 解剖生理学	宣広社
③	トートラ人体の構造と機能	丸善
④	解剖生理学	南山堂
⑤	ロス&ウィルソン 健康と病気のしくみがわかる解剖生理学 改訂版	西村書店
⑥	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学	メディカ出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書	担当教員
第1回	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識		①②	板 東
第2回	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識		①②	板 東
第3回	第7章 身体の支持と運動Ⅰ(骨・関節)		①②	板 東
第4回	第7章 身体の支持と運動Ⅱ(筋肉と支配神経)		①②	板 東
第5回	第7章 身体の支持と運動Ⅲ(筋肉と支配神経)		①②	板 東
第6回	第3章 血液Ⅰ		①②	板 東
第7回	第3章 血液Ⅱ、第9章 生体の防御機構		①②	板 東
第8回	第4章 血液循環Ⅰ		①②	板 東
第9回	第4章 血液循環Ⅱ		①②	板 東
第10回	第4章 血液循環Ⅲ		①②	板 東
第11回	第3章 呼吸器Ⅰ		①②	板 東
第12回	第3章 呼吸器Ⅱ		①②	板 東
第13回	第3章 呼吸器Ⅲ		①②	板 東

授業回数	履修主題	履修内容	教科書	担当教員
第 14 回	第2章 栄養と消化吸収 I		①②	板 東
第 15 回	第2章 栄養と消化吸収 II		①②	板 東
中 間 試 験				
第 16 回	第2章 栄養と消化吸収III		①②	板 東
第 17 回	第5章 体液調節と尿の生成 I		①②	板 東
第 18 回	第5章 体液調節と尿の生成 II		①②	板 東
第 19 回	第5章 体液調節と尿の生成 III		①②	板 東
第 20 回	第 10 章 生殖器 I		①②	板 東
第 21 回	第 10 章 生殖器 II		①②	板 東
第 22 回	第6章 内蔵機能の調節 I		①②	板 東
第 23 回	第6章 内蔵機能の調節 II		①②	板 東
第 24 回	第6章 内蔵機能の調節 III、 第9章 代謝と運動、体温とその調節		①②	板 東
第 25 回	第8章 情報の受容と処理 I		①②	板 東
第 26 回	第8章 情報の受容と処理 II		①②	板 東
第 27 回	第8章 情報の受容と処理 III		①②	板 東
第 28 回	第8章 情報の受容と処理 IV		①②	板 東
第 29 回	第8章 情報の受容と処理 V		①②	板 東
第 30 回	第8章 情報の受容と処理 VI、 第9章 皮膚		①②	板 東
修 了 試 験				

学生へのメッセージ

この科目は臨床を理解する上で極めて重要であるため、試験に受かることが目標ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが大切である。しかしながら、解剖生理学は理解しなければならない知識量が膨大であり、講義を一度聞いただけでは理解できず、まとめて短時間に習得することも不可能である。また、多くの学生が国家試験前でも苦戦しているので履修時からコツコツと少しずつ日々努力を積み重ねていくことが望ましい。理解しているかどうかは覚えての専門用語を意味もわからずに並べるだけでなく、自分の言葉で相手に説明でき、その内容を相手が理解してくれることが目安となる。

参考書は概して高いので自分に合ったものを選べばよい。ドリルや問題集もあった方が習熟度の把握に役立つが、国試に実際に出題された問題を用いて出題者の意図(何を問いたいのか？その内容のどこが重要なのか？)を分析した上で勉強するのも効率的な学習方法の一つと言える。

やむを得ず休校や振替を行う場合は随時通知する。